

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成24年10月16日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. 手術支援ロボット『ダビンチ』運用開始
2. ペルー共和国にナスカ研究所を開所します！
3. 工学部と米国ポーリング・グリーン州立大学が学部間交流協定を締結
4. 山形大学有機エレクトロニクス研究センターが、ドイツザクセン州ドレスデン市に産学官合同の視察団を派遣
5. 基盤教育「社会人基礎力をみかく」テキストのモニターを募集

お 知 ら せ

1. 山形大学人文学部学術講演会「世界見てある記～世界と向き合って仕事をして」の開催
2. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」11月の開催案内
3. 平成24年度保健管理センター公開講座「東日本大震災被災者に対する心理サポート」の開催

(参 考)

次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成24年11月9日(金) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

(告 示)

山形大学の学生諸君へ

去る平成24年10月8日、本学学生が住居侵入の疑いで警察に逮捕されるという事件がありました。この事件により、今年に入り逮捕された学生数が3名となりました。大変異常な事態であり、深刻な状況です。

4月、9月に逮捕者が出た際、小山副学長から全学生に対し「注意喚起」を行い、その中で、山形大学の学生であるという自覚と、節度ある行動を取るよう強く求めたにもかかわらず、わずか1ヶ月後に逮捕者が出てしまったことは非常に残念に思います。

今後、このような事態を繰り返さないために、学生の皆さんには自重するよう改めて強く求めます。軽率な行動が、これからの人生に大きな傷跡を残すこととなります。また、これまで支えてくれた家族や恩師、友人を裏切ることにもなります。さらに、一人の行為が、これまで多くの卒業生や教職員が長年にわたって築き上げてきた「本学に対する信頼」を一瞬にして揺るがし、多くの勤勉な在學生をはじめ、全国で幅広く活躍するおよそ8万人の卒業生にも迷惑をかけることとなります。

自己の行動が、自分ひとりの問題では済まされない結果を招くことを改めて強く自覚してください。

学生諸君には、山形大学の学生であるという誇りと自覚を持ち、自らの行動を律するよう改めて強く求めます。

平成24年10月12日

山形大学長
結 城 章 夫

平成24年10月16日
山形大学

手術支援ロボット『ダビンチ』運用開始

山形大学医学部附属病院では、手術支援ロボット『ダビンチ』の運用を開始しました。前立腺がん症例を中心に手術を施行する予定です。

1. 導入の経緯と現状

平成24年5月26日 本学附属病院にダビンチS納入、同日より、術者、看護師、MEのダビンチサージカルシステムトレーニングプログラム開始。7月25日の公式見学(藤田保健衛生大学病院)でプログラム終了。内視鏡外科学会、泌尿器内視鏡学会のガイドラインに沿った形で7月30日に第一例目の前立腺がん症例に対するロボット補助下腹腔鏡下根治的前立腺摘除術を施行。8月27日、9月14、24日とこれまで四症例行った。すべての症例で手術後経過順調である。

この四症例の結果として特筆すべきは、1.出血量が開放手術の10分の1程度(100ml以下)であった、2.手術後の尿漏れがほとんどない、3.手術後の回復が極めて速い、ことであった。

2. 今後の予定

当面、月2から4例のペースで施行予定である。また、医学部長直属のワーキンググループが設置されており、前立腺がん以外の手術に対しても、順次、応用を図る等、より有効に活用する方向で活動している。

また、本装置による手術は、術者以外の医師、看護師、学生等もハイビジョン3D画像で見ることができるため、教育的にも極めて有用である。

さらに、施設を超えての手術画像の共有も可能であり、県内の医療機関の連携を視野に入れた運用を目指している。

(お問い合わせ)

山形大学医学部総務課庶務担当

(TEL) 023-628-5006

平成24年10月16日
山形大学

ペルー共和国にナスカ研究所を開所します！

10月30日（火）に山形大学人文学部附属ナスカ研究所をペルー共和国ナスカ市に開所します！

< ナスカ研究所概要 >

1. 土地

所在：ペルー共和国イカ県ナスカ市Fundo Bisambra 地域LasAcacias 通り
地積：536.1468㎡

2. 建物

所在地：同上土地内
構造：鉄筋コンクリート造2階建
延床面積：500㎡程度

< 開所式概要 >

1. 日時：平成24年10月30日（火）11:00～（現地時間）

2. 場所：山形大学人文学部附属ナスカ研究所

3. 山形大学側出席者

結城学長、柴崎理事（施設担当）、北川人文学部長（ナスカ研究所長）

渡邊洋一教授（前人文学部長）、坂井正人教授（ナスカ研究所副所長）ほか

4. ペルー共和国側出席者（予定）

ペルー共和国文化大臣、ナスカ市長

5. 日本政府関係

在ペルー日本国大使館大使

6. 内容

関係者挨拶（結城学長・ペルー共和国文化大臣・在ペルー日本国大使）、除幕式及び内覧会

お問合せ先

【研究に関すること】

ナスカ研究所副所長 坂井正人 電話：023-628-4785

【開所式に関すること】

人文学部事務長 齋藤賀久 電話：023-628-4201

現地における調査研究で、世界のナスカ研究をリード
長期的な展望に立った国際的な共同研究



山形大学人文学部附属 ナスカ研究所

世界遺産ナスカの地上絵（南米ペルー共和国）に関する研究は、山形大学が中心になって、日本およびペルーの研究者が実施している国際的な共同研究です。人類学、考古学、地理学、情報科学、心理学、動物学、植物学、農学、年代学などの専門家が参加して、学際的な視点から、ナスカの地上絵の実態解明を目指しています。またペルー政府と連携して、世界遺産ナスカの地上絵の保護活動に貢献しています。

ナスカ台地およびその周辺部における、地上絵の分布状況を把握することから、この研究は始まりました。ナスカ台地は東西約 20 km、南北約 15 kmにおよぶ広大な範囲に広がっているので、そこに分布している地上絵の全体像を正確に把握した先行研究は存在しません。

我々は人工衛星から撮影された高精度な画像を積極的に活用するとともに、地上における地道な調査を実施することで、どのような地上絵がどこにいくつ分布し、そこでどのような人間活動があったのかについて研究してきました。



山形大学調査チーム 発見の地上絵 左 (2006年公表) 上 (2011年公表)

人工衛星からナスカ台地を撮影した画像を精査したところ、先行研究では知られていなかった、新しい地上絵（全長約 60m）を発見することができました。この地上絵には後脚があることから、動物が描かれたと推定できます。一方、ナスカ台地における地上調査によって、人間の頭部の地上絵（約 4m×3m）が発見されました。

研究所外観



- ◆ 鉄筋 2 階建
- ◆ 敷地面積：約 538 m²
- ◆ 延床面積：約 500 m²

- 1 階 実験室・PC ルーム・研究資料室・管理人室
- 2 階 研究室・資料保管室
- テラス 資料分析スペース

研究内容・用途

世界遺産ナスカの地上絵が分布するナスカ台地で、山形大学調査団は現地調査を実施しています。これらの地上絵を調査しているのは、現在、世界で唯一山形大学だけです。

地上絵の近くには、当時の人々が残した膨大な土器や石器が分布しています。最新の学際的な研究成果にもとづいて、山形大学ナスカ研究所では、これらの遺物の特徴や分布状況を分析します。



アクセス



山形大学人文学部附属 ナスカ研究所

Instituto Nasca de la Universidad de Yamagata

- 住所
Lote R Residencial Bisambra 1 de Nasca, Calle Las Acacias, Nasca, Ica, Perú.
- 問い合わせ先
山形大学人文学部総務係
023-628-4203
nasca@human.kj.yamagata-u.ac.jp



平成24年10月16日
山形大学

工学部と米国ポーリング・グリーン州立大学が学部間交流協定を締結

- (1) 山形大学工学部は、米国オハイオ州のポーリング・グリーン州立大学人文科学部(College of Arts and Sciences)と学部間交流協定を締結しました。工学部の学部間交流協定校は、本件で20校目となります。
- (2) ポーリング・グリーン州立大学光化学センターは、光化学分野で有名で、本学の有機エレクトロニクス研究センターとの間の研究交流が進むことが期待されます。
- (3) 今回、有機エレクトロニクス研究センター副センター長の時任教授が同大学を訪問し(協定締結後では初訪問)、今後の研究交流について意見交換を行いました。

1. 学部間学術交流協定について(協定内容)

- (1) 協定締結日：2012年8月17日
- (2) 締結者：ポーリング・グリーン州立大学人文科学部長
サイモン モーガン-ラッセル
山形大学工学部長 飯塚博
- (3) 交流内容 教職員及び学生の交流
共同研究の推進
研究結果や学術情報の交換等

2. 学術交流締結後の活動について

- (1) 訪問日：2012年9月28日
- (2) 場 所：米国オハイオ州ポーリング・グリーン州立大学
- (3) 訪問者：有機エレクトロニクス研究センター副センター長 時任教授他
先 方：ポーリング・グリーン州立大学人文科学部長
モーガン-ラッセル学部長他
- (4) 訪問結果：協定に基づく交流の内容について、先方と協議を行い、
今後は、印刷で行ったトランジスタ回路の高性能化に向け、新しい
有機半導体の化学合成に関する協力を進めて行くこととなった。

お問い合わせ)
山形大学有機エレクトロニクス研究センター
研究プロジェクト支援室
電話：0238-26-3590

1 . 工学部のこれまでの学術交流協定状況

	国名	大学名
1	中国	東北電力大学
2	中国	吉林化工学院
3	アメリカ	テキサス州立大学サンマルコス校
4	中国	吉林大学
5	中国	河南大学化学化工学院
6	アメリカ	テキサス大学ダラス校工学部
7	中国	中国科学院化学研究所
8	バングラデシュ	バングラデシュ工科大学
9	中国	東華大学材料科学工程学院
10	中国	中国大理大学
11	ハンガリー	ブタペスト工科大学
12	ベトナム	国立ホーチミン大学自然科学大学
13	ウクライナ	ハーコフ国立無線電子大学
14	ドイツ	エルランゲン-ニュルンベルク大学工学部
15	中国	河南理工大学
16	韓国	漢陽大学
17	台湾	台湾大学工学院・電気情報学院
18	韓国	韓国海洋大学
19	日本	日本NPOセンター

2 . ボーリング・グリーン大学人文科学部の概要

名称 : Bowling Green State University

(BGSU, ボーリンググリーン州立大学)

College of Arts and Sciences (人文科学部)

学部設立 : 1929年 (大学設立は1910年で山形大学工学部と同年)

学部概要 : BGSUにおいて、最大規模で、分野が多岐に渡る学部で、31の学科、約100の専攻がある。教授陣は約500名。心理学や哲学が全米でも高いランクに位置している。また光化学分野も有名で、山形大学工学部の有機EL分野と研究領域が近い。光化学センター(Center for Photochemical Sciences)では、ハモンドの仮説のGeorge S. Hammondに代表されるように著名な化学者が在籍し

ていた歴史があり、現在でも活発に光化学分野の研究が行われている。

なお、有機エレクトロニクスイノベーションセンターの儘田イノベーターは同学部の研究グループで、有機エレクトロニクスに関する研究交流を既に行った実績がある。

3 . 訪問時の写真



ジョン R. ケイブル博士
ボーリング・グリーン州立大学
化学科学科長

パベル アンゼンバッカー JR. 博士
ボーリング・グリーン州立大学
化学科

時任 静士 教授
山形大学有機エレクトロニクス
研究センター副センター長

モーガン・ラッセル博士
ボーリング・グリーン州立大学
人文科学部長



平成24年10月16日
山形大学

山形大学有機エレクトロニクス研究センターは、ドイツザクセン州ドレスデン市に産学官合同の視察団を派遣しました

- (1) 山形大学有機エレクトロニクス研究センターは、城戸副センター長を団長とし、総勢18名からなる産学官合同の視察団を、ドイツザクセン州ドレスデン市に10月7日(日)～12日(金)に派遣しました。
- (2) 訪問団は、フラウンホーファー研究機構、ドレスデン工科大学等を訪問し、活発な意見交換を行いました。
- (3) 10月9日(火)～11日(木)に開催されたプラスチック・エレクトロニクス学会にも参加しました。団長の城戸副センター長は、同学会で「ディスプレイや照明への有機ELの利用」と題する基調講演を行いました。
- (4) ドレスデン工科大学と山形大学工学部の学部間交流協定締結に向けて、さらに同大学との連携を深めていくとともに、ザクセン州とのジョイントセミナーの開催などを積極的に進めていく予定です。

1. 視察の目的

山形大学有機エレクトロニクス研究センターにおいては、新たな産業として期待されている有機エレクトロニクスに関し、激しい国際的な競争が繰り広げられ始める中、問題意識を共有し、その具体的な対応やプロジェクト立ち上げについて議論や提案を行うことを目的に、有機エレクトロニクス研究センター長を座長とする新たな産学コンソーシアム発足に向けた準備を進めています。

このたび、その取り組みの一つとして、産学官が密に連携し、一丸となって取り組みを進めている先進地域であるドイツのザクセン州ドレスデン市へ視察団を派遣しました。派遣にあたっては、ドレスデン市にて開催のプラスチック・エレクトロニクス学会の時期にあわせ、ドレスデン市の産・学関係者との意見交換を行うとともに、学会における基調講演や情報収集を行いました。

2. 視察の概要

(1) 日程 10月7日(日)～12日(金)

(2) 構成

団長：城戸淳二(山形大学有機エレクトロニクス研究センター副センター長)

構成員 山形大学、九州大学、山形県、米沢市、帝人株式会社、パナ

ソニック株式会社、Lumiotec 株式会社他
合計 14機関 18名

(3) 視察先

フラウンホーファー研究機構

- ・ドレスデン有機材料・電子装置センター(COMMED)
- ・電子ビーム・プラズマ技術研究所(FED)
- ・材料・ビーム技術研究所(IWS)

ドレスデン工科大学

Heliatek 社(ドイツの有機薄膜太陽電池メーカー)

ドレスデン・ライプニッツ・ポリマー研究所

エフ・エイチ・アール設備製造社

3. プラスティック・エレクトロニクス学会

10月9日～11日にメッセドレスデンで開催されたプラスチック・エレクトロニクス学会に出席しました。

10月9日(火)には、団長である城戸副センター長が「ディスプレイや照明への有機ELの利用」と題して基調講演を行いました。

4. 今後の予定

ドレスデン工科大学と山形大学工学部の学部間交流協定に向けて、さらに同大学との連携を深めていくとともに、ザクセン州とのジョイントセミナーの開催や人的交流などを積極的に進めていく予定です。

5. その他

10月10日(水)に、視察団は、中根在ドイツ特命全権大使御主催による日本大使館主催夕食会が開催され、日本とドイツの産学官関係者間で今後の連携強化に関する意見交換を行いました。夕食会は約50人が参加し、盛大に開催されました。

お問い合わせ)

山形大学有機エレクトロニクス研究センター
研究プロジェクト支援室

電話：0238-26-3590

視察先の概要

(1) ドレスデン市

ドイツで4番目に大きな都市で、ドイツ南東に位置する。マイクロエレクトロニクスでは、ドイツで、最大のクラスターを誇り、1500社が、4万8000人以上の雇用を生んでいる。

市内には、ドレスデン工科大学、フランクフォート研究所、ライプニッツ協会があり、最新の技術や材料の開発を行っている。

ドレスデンは、革新的な有機半導体の中心的なセンターであるとともに、有機EL技術の先進的な開発拠点でもある。産業と研究の協力が密になされており、持続的な発展につながっている。有機太陽電池などの技術革新などもドレスデンから起こった。

(2) 各研究所等の概要

フラウンホーファー研究機構

大学や研究機関の研究成果を速やかに社会に還元させることを目的として、応用研究をおこなうための研究機関として1949年に設立。

・ドレスデン有機材料・電子装置センター (COMMED)

有機発光ダイオード(OLED)や有機太陽電池などの有機半導体製品製造方法の開発を行うセンター。2008年に設立。

・電子ビーム・プラズマ技術研究所 (FED)

真空蒸着法や電子ビーム技術を使った研究開発を行う。1991年に設立

・材料・ビーム技術研究所 (IWS)

レーザーや材料表面の加工技術の応用研究や開発を行う。1990年に設立。

ドレスデン工科大学

ドレスデン工科大学は1828年に創立されたドイツで最も古い工科大学の一つであり、研究に関して最も重要な役割を果たしている大学の一つである。山形大学工学部の城戸卓越教とLeo教授は、20年来の親交があり、有機ELの分野で交流が進んでいる。

Heliatek 社

ウルム大学とドレスデン工科大学からのスピンオフ企業。軽量で柔軟な大型サイズの太陽電池の格安生産を目指し、所要材料と消費エネルギーの低減化に取り組んでいる。

ドレスデン・ライプニッツ・ポリマー研究所

社会に役立つ科学を志向して1995年に設立された機関。テーマオリエンテッドな研究活動を行い、成果の社会還元を目指す。

エフ・エイチ・アール 設備製造社

ドレスデン近郊に本社を置くエッチング設備とスパッタ設備を専門とする企業。柔軟基材用の巻取り式製法の生産設備を製作。

平成24年10月16日
山形大学

山形大学基盤教育テキスト『社会人基礎力をみがく 必携!』 モニターを募集します

山形大学基盤教育院研究部では、本年度後期に新たに開設した授業「社会人基礎力をみがく」のテキスト『社会人基礎力をみがく 必携!』をこのほど作成しました。
内容をさらに充実させるため、モニターを募集します。

本年度後期に新たに開設した授業「社会人基礎力をみがく」は、既に前期全学部1年生必修で開講している導入教育「スタートアップセミナー」の内容をさらに深化させ、大学での学びに加えて就職活動や社会人としての基本を身につけてもらうことを目的として設けました。基盤教育の選択授業として開講しています。

今年度の授業をもととして、来年度から導入教育「アドバンストセミナー」として開講する予定で準備を進めています。

テキストはスタートアップセミナーのテキスト『なせば成る!』の姉妹編と位置づけられるもので、来年度は市販する予定です。

つきましては、テキストの内容をさらに充実したものとするためモニターを募集します。

モニターの資格

- ・大学はじめ高校などの学校関係者、あるいは公務員や企業社員の研修など、広い意味での教育にかかわっていらっしゃる方であればどなたでも。
- ・テキストをお読みいただき（あるいは実際に使用していただき）、その構成・項目・記載内容などについてご意見をいただける方。

提供方法

- ・本テキストの電子データ（PDFファイル）をお送りします。
- ・冊子版は部数が限られていますので原則としてご提供できません。

モニターとしての義務

- ・平成25年（2013）1月下旬までの期間に随時ご意見をお寄せください。
- ・全体にかかわるご意見でも部分的なご意見でもかまいません。

備考

- ・第三者に電子データを提供することをご希望の場合はその旨ご相談ください。ただし、原則として授業や研修で使用する目的に限定させていただきます。

お問合せ・お申込み先（郵便または電子メールにて下記にご連絡ください）

山形大学基盤教育院 山本陽史

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12

yamaharu@yz.yamagata-u.ac.jp

（お問い合わせ）

山形大学基盤教育院 山本陽史

TEL 023-628-4659

又は携帯電話 090-6132-1198

山形大学
Yamagata University

山形大学基盤教育

社会人基礎力
をみがく
必携！

平成24年10月16日
山形大学

1. 山形大学人文学部学術講演会「世界見てある記～世界と向き合って仕事をして」の開催

人文学部では、10月24日(水)に学術講演会を開催します。講師には、トヨタ自動車(株)顧問石坂 芳男 氏をお招きして、「世界見てある記～世界と向き合って仕事をして」～と題して、ご講演いただきます。

日 時:平成24年10月24日(水)14:45～16:30

会 場:人文学部205教室(小白川キャンパス)

対 象:学生・教職員・一般市民(参加費は無料)

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

2. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」11月の開催案内

「大学コンソーシアムやまがた」では、「もう一つの人づくり」を実現するため、「山形県の人・モノ・地域作り」をテーマに、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方に、皆様へわかりやすいお話しをしていただいています。11月は、「6次産業化へ挑戦！山形の農業」をテーマに開催します。

日 時:各回とも18:30～19:30まで

11月 7日(水)「6次産業化が切り拓く山形農業」

小沢 互 氏 (山形大学農学部 教授)

11月14日(水)「6次産業化でふるさとの農地を守る」

大泉 忠昭 氏 (農業生産法人株式会社月山じょいふるふぁーむ 代表取締役社長)

11月21日(水)「過疎地における6次産業の事例と課題」

落合 春信 氏 (合同会社QMM地域開発研究所 代表)

11月28日(水)「果物を使った6次産業」

村山 秀樹 氏 (山形大学農学部 教授)

会 場:ゆうキャンパス・ステーション (山形市:山形むらきさわビル1階)

対 象:高校生・学生・一般市民

定 員:50名(参加費は無料)

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

3. 平成24年度保健管理センター公開講座「東日本大震災被災者に対する心理サポート」の開催

昨年3月に東日本大震災が発生し、大津波や原子力事故による甚大な被害をもたらし、多くの住民が未だ故郷を離れた生活を余儀なくされています。この度、臨床心理士として宮城県での被災者支援活動を担当されている荒木園子先生を講師にお招きし、東日本大震災にさかのぼって、阪神淡路大震災での荒木先生ご自身の体験をお話いただきます。震災時、私たちはどの様に対応すべきかを考える良い機会になると思いますので、ふるってご参加ください。

日 時: 11月6日(火) 18:00～20:00

場 所: 基盤教育2号館1階214番教室(小白川キャンパス)

内 容: 講演会「東日本大震災被災者に対する心理サポート」

講 師: 臨床心理士 荒木園子 氏

対 象: 市民, 本学学生・教職員

定 員: 100人(受講料は無料)

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

山形大学人文学部学術講演会

講師

トヨタ自動車(株)顧問
石坂芳男氏

平成24年

10/24(水)

14:45 ~ 16:30



経歴 1996年 米国トヨタ社長
2001年 トヨタ自動車副社長
2005年 トヨタ自動車相談役

世界見てある記

~世界と向き合って仕事をして

場所 山形大学人文学部1号館2階205教室

対象 学生、教職員、一般市民

お問い合わせ先

山形大学人文学部法経政策学科 國方 敬司
電話:023-628-4268

山形大学人文学部事務室 担当: 樋口 浩朗
電話:023-628-4203 FAX:023-628-4212

メール:jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



やまがた夜話

テーマ **6次産業化へ挑戦！山形の農業**

11月 7日 (水) 「6次産業化が切り拓く山形農業」
18:30～19:30 **小沢 亙 氏** (山形大学農学部 教授)

11月14日 (水) 「6次産業化でふるさとの農地を守る」
18:30～19:30 **大泉 忠昭 氏**
(農業生産法人株式会社月山じょいふるふぁーむ 代表取締役社長)

11月21日 (水) 「過疎地における6次産業の事例と課題」
18:30～19:30 **落合 春信 氏** (QMM地域開発研究所 代表)

11月28日 (水) 「果物を使った6次産業」
18:30～19:30 **村山 秀樹 氏** (山形大学農学部 教授)

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民
入場無料 定員: 50名

お申し込み 電話又はチラシ裏面の参加
申込書に必要事項を記入の
上Fax, 郵送、メール等でお
申し込みください。



主催

お申込み・お問合せ



大学コンソーシアムやまがた

大学コンソーシアムやまがた

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階
TEL: 023-628-4842 FAX: 023-628-4820
E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 平成24年11月 7日(水) 講師: 小沢 亘 氏 <input type="checkbox"/> 平成24年11月14日(水) 講師: 大泉 忠昭 氏 <input type="checkbox"/> 平成24年11月21日(水) 講師: 落合 春信 氏 <input type="checkbox"/> 平成24年11月28日(水) 講師: 村山 秀樹 氏
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成 24 年度 山形大学保健管理センター

公開講座のお知らせ

テーマ：東日本大震災被災者に対する 心理サポート

平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、大津波や原子力事故による甚大な被害をもたらし、多くの住民が未だ故郷を離れた生活を余儀なくされております。

この度、臨床心理士として宮城県での被災者支援活動を担当しておられる荒木園子先生を講師にお招きし、東日本大震災にさかのぼって阪神淡路大震災での荒木先生ご自身の体験をお話いただくこととなりました。震災時、私達はどの様に対応すべきか考える良い機会になりますので、ふるってご参加ください。

期 日：平成 24 年 11 月 6 日(火) 18 時から 20 時まで
場 所：山形大学小白川キャンパス 基盤教育 2 号館 214 番教室
講 師：臨床心理士 荒木 園子 氏
受 講 対 象：一般市民、本学学生、教職員
定 員：100 名
受 講 料：無料
申 込 み 方 法：住所・氏名・連絡先を記入の上、FAX 又は E メール、
郵送などでお申込みください(電話も可)
申 込 み 期 限：平成 24 年 11 月 2 日(金)まで
申 込 み 先：山形大学保健管理センター

〒990-8560 山形市小白川町一丁目 4 番 12 号

TEL : 023-628-4153 FAX : 023-628-4157

E-mail : nsroom@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



特 別 展 示 の お 知 ら せ

小白川図書館所蔵石碑拓本の特別展示会を
下記のとおり開催しますので、ご覧ください。

とき

平成24年10月15日(月)～20日(土)
9:00 - 17:00(20日は11:00-17:00)

ところ

小白川図書館シアタールーム

展
示
品

- ・高句麗広開土王碑拓本
- ・多賀城碑拓本
- ・物部守屋大連之碑拓本(千歳山)